

# ゆとり教育世代の 自己表現力

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の初代センター長梅林宏道博士が、この3月末で退任されました。設置後3年。研究活動、人材育成、地域貢献とRECNAの活躍は目覚ましく、ヒバク大学に設置された核兵器廃絶に特化した世界初の研究組織として、地域はもちろん国連をはじめ平和を希求する世界の関連組織の間にも完全に定着しました。この間の梅林センター長のリーダーシップに心から敬意を表します。この3年間の活動を基盤として、RECNAの活動は今後、核兵器廃絶を求める世界の潮流の中で、さらに大きな影響力を発揮することになるでしょう。



去る1月、このRECNAとNHKとの共同プロジェクトで、評論家の立花隆さんを迎えて本学の学生を中心とする長崎の学生たちとのワークショップが開催されました。先ず立花さんが「被爆者なき時代に向けて」と題した講義を行い、その中で問題提起を受けた学生たちがグループに分かれて議論し、その結果を発表し合うという形で進化した

そうです。立花さんは原爆投下の5年前に長崎医科大学病院で産声を上げた生い立ちから、核兵器問題に対する思い入れは強く、今回のテーマには、核兵器廃絶の実現に向けての問いかけとともに、被爆後70年が経過しヒバクシャがいなくなる中で被ばく体験をどのように継承していったらいいのかという、彼の問題意識が込められています。立花さんと学生たちとの議論は、大変盛り上がったそうです。

立花さんは、ある雑誌に掲載されたエッセーの中で、このワークショップの印象を記されていますが、ゆとり教育世代の彼らに対する、次のような言葉で結ば

れています。“自分たちなりの意見をまとめて発表するということになると、臆せずにもものを言い、なかなかの自己表現力をもっている。そういう姿を見ていると、日本にも新しい若い世代が着実に育ちつつあるなど思えて嬉しかった。”

立花さんにそのような感慨を抱かせた学生諸君を、とても頼もしく、そして誇りに思います。

片峰 茂

## CONTENTS

長崎大学広報誌  
[チョーホー]  
Choho Vol.51

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	ゆとり教育世代の自己表現力	1	表紙のはなし
特集	新生! 再生! 新しい長崎大学へ	2	坂本キャンパスの附属図書館医学分館は、昨年5月にリニューアルしました。耐震化構造にするのと同時に館内も整備し、2階の南側窓沿いにカウンター席が新設され、明るくなりました。春休みにもかかわらず撮影に協力してくれたのは演観月さん(左)と、澤田彩佳さん。
長崎大学のいま!	医学部	11	
大学の研究最前線	川内村復興推進拠点で住民と向き合う	15	
大学はわたしの仕事場	王 維	17	
グラバー園譜	タカノハダイ	19	
Information	公開講座	21	
	長崎大学「通」クイズ	22	
	編集後記	22	